

## 9. IPF 急性増悪症例における急性期 DIC スコアの有用性

山崎 亮 西山 理 山縣俊之 佐野博幸 岩永賢司 東本有司

久米裕昭 東田有智

呼吸器・アレルギー内科

【目的】 特発性肺線維症急性増悪 (IPF-AE) は予後不要である。当科にて入院加療を行った IPF-AE 患者において入院死亡の予測因子を評価し、特に急性期 DIC スコアの有用性を検討した。

【対象と方法】 2008年1月から2014年12月の間に当科で入院を要した IPF-AE 患者27例 (31エピソード) について、入院前の肺機能検査、入院時のデータ等と予後との関係を調査した。

【結果】 平均年齢は $72.4 \pm 6.0$ 歳、男性25名、女性2名、入院前の肺機能は FVC $2.2 \pm 0.9$ L, % FVC $69.3 \pm 26.1$ %であった。入院中死亡、30日死亡、90日死亡はそれぞれ29.0%, 16.1%, 32.2%であっ

た。入院中死亡との各因子の関連をロジスティック解析で検討したところ、FEV1/FVC (OR=1.19, p=0.03), PLT (OR=0.85, p=0.02), P/F ratio (OR=0.98, p=0.02), SOFA score (OR=2.42, p=0.03), 急性期 DIC score (OR=5.61, p=0.02) が有意に予後と関連を示した。生存群の入院時の急性期 DIC スコアは $0.3 \pm 0.6$ であったのに対し、死亡群では $1.5 \pm 1.1$ であった。

【結語】 IPF-AE 患者において急性期 DIC スコアは入院死亡と有意に関連を示し、より早期の DIC 治療開始の有用性が示唆された。